

紫波町の旧星山小を活用した星山えほんの森保育園(平賀悦子園長、園児86人)で6月28日、有機野菜を使った給食の試食会が開かれた。同園は「農保連携型保

育」を掲げて2024年春にスタート。田植えや野菜栽培などを通じた食育に力を入れており、参加者は農業が日常にある保育について理解を深めた。

紫波・星山えほんの森保育園

花巻市有機農業推進協議会が主催し、親子連れら28人が参加。平賀園長(47)の夫で、農場長として働く恒樹さん(48)が園内で栽培する有機野菜について説明した。

現在は給食で使う食材のほとんどを地元から購入しているが、今後は農場の野菜も使いながら提供していく。農場の見学では普段の子どもや畑の様子についてたくさん質問が飛び交い盛り上がりを見せた。

試食では、野菜がふんだんに入ったカレーやニンジンスープを味わった。金ヶ崎町西根の栄養士柏田麻織さん(30)は「野菜がたくさん入った給食が園児に好評だと聞いて驚いた。農業が身近な環境が影響しているのか気になる」と関心を高めた。

同園は県内外で保育施設を運営する、みんなのみらい計画(盛岡市)が運営を

有機野菜の給食試食会

園で栽培
食育に力



野菜がたくさん入った給食を味わう参加者たち

担う。校庭だった場所など、活用し、みそ、梅干し作り、野菜栽培に親しむ。平賀園長は「子どもたちにも、野菜を食べ、食育の大切さを伝える」と強調する。

(泉山優花)

“農”に学ぶ保育推進

※岩手日報2025年7月2日付

※岩手日報社の許諾を得て
転載しています